

平松麿寺 一瓦からみた謎の古代寺院

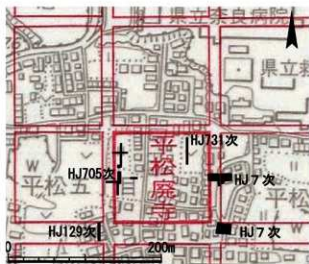
平松五丁目（H J 705 次）・三丁目（H J 731 次）

平城京の西端に近い現在の平松三・五丁目付近では戦前から瓦が採集されており、なかでも蓮華紋の外側に唐草を巡らすという珍しい意匠の複弁8弁蓮華紋軒丸瓦（6345 A）は有名で、地名をとって平松麿寺とよばれました。昭和10年（1935）に立正大学考古学研究室の数名が瓦を採集し、それまで採集された軒瓦の中に無子葉単弁8弁蓮華紋軒丸瓦や重弧紋軒平瓦等が含まれていることから、7世紀後半の創建寺院と考えました。

一方、平成5・6年（1993・1994）年に橿原市田中町の田中麿寺で実施された発掘調査の出土瓦には、平松麿寺採集品と同範の無子葉単弁8弁蓮華紋軒丸瓦（田中麿寺 I B）と6345 Aがあることから、田中麿寺を平城京内に移建した寺が平松麿寺である可能性が指摘されました。田中麿寺は、蘇我氏傍系の田中臣の氏寺との指摘があります。

このような瓦による先行研究ののち、平成28年（2016）に初めて想定寺院地内である右京四条四坊十二坪の西辺で発掘調査（H J 705 次調査）を実施しました。奈良時代の瓦を含む溝がみつき、出土瓦の内容や量からみて、寺院があったことは確実と判断できるようになりました。

続けて平成30年（2018）には十二坪の北東辺で発掘調査（H J 731 次調査）を実施しました。北から南へ下る傾斜地を大規模に埋め立て造成し



調査地位位置図（1/5,000）

た痕跡や、その上から掘り込んだ溝・土坑を検出するとともに、田中麿寺と同範の7世紀後半の軒丸瓦2種の出土を初めて確認できました。

平成28・30年の調査とともに、基壇等の遺構は無かったのですが、多量に出土した瓦から、平松麿寺の性格の一端が明らかになりました。

平松麿寺の出土瓦から

平成28・30年の両調査の平松麿寺の出土瓦類は大きくA・B・C群の3つのグループに分けることができます。

A群は表面が黒色、内部は淡褐色で、軟質に焼きあがる瓦です。出土瓦の7割を占めます。平瓦の大半は粘土紐を素材とした桶巻作りです。軒瓦は複弁8弁蓮華紋軒丸瓦6345 Aと、6回反転偏行唐草紋軒平瓦6642 Dが多数を占め、奈良時代初めの平松麿寺創建瓦と考えます。この他、薬師寺所用の複弁8弁蓮華紋軒丸瓦6276 Eがありますが、薬師寺出土品よりも紋様型（範）の傷みが進んだ段階のもので、製作技法にも違いがみられます。このことから、薬師寺の造瓦所から、平松麿寺の造瓦所へ範が移動し、製作されたものと判断できます。A群の瓦は田中麿寺ではみつかっていません。

B群は表面が青灰色、胎土中に白色の砂粒を多



H J 731 次調査全景（南西から）

く含んだ硬質の瓦です。平瓦は粘土紐を素材とした桶巻作りです。軒丸瓦は田中廃寺ⅠBと同範の無子葉単弁8弁蓮華紋、軒平瓦には頸部にも施紋している点が特徴的な重弧紋軒平瓦があります。田中廃寺ⅠBは藤原京造営に伴う補修期の瓦と位置付けられている瓦です。またA群にもみられる6345 A・6642 Dも確認できます。A・B両群の6345 Aを比較した結果、A群の6345 Aの方が範傷が進行しているとわかりました。さらには、田中廃寺でも6345 Aは出土しており、これがB群であることから、これらの軒瓦は7世紀後半に製作された田中廃寺所用品とみてよく、平松廃寺創建時に持ち込まれたものと考えます。

C群は表面が淡褐色、内部は黒色で、やや軟質に焼きあがる瓦です。9点しかみつかっていません。軒瓦には田中廃寺ⅠAと同範の有子葉単弁8弁蓮華紋があります。田中廃寺ではⅠAの出土量が多いこと、ⅠAはⅠBに先行するとみられることから、7世紀中頃の創建瓦とされています。このことからC群の瓦もB群の瓦同様、田中廃寺所製瓦であり、平松廃寺に持ち込まれたものと考えるのが妥当です。

このような田中廃寺出土瓦との同範関係や瓦の特徴の比較の結果、B・C群は7世紀後半の田中廃寺所用品で平松廃寺に持ち込まれたもの、A群は8世紀初めの平松廃寺創建瓦と評価できます。これらの成果から、平松廃寺の前身寺院は田中廃寺であり、平城遷都とともに移建された寺とみて間違いないと考えます。

なお、平城宮第一次大極殿の瓦は、宮内の他地点より黒色度合が強く、中国の重要宮殿にみられる黒色の瓦を模倣すべく製作されたとの指摘があり、同じ頃製作された平松廃寺の創建瓦A群との類似性や、官の大寺である薬師寺の範を使用していることは注目されます。一方、田中廃寺の造立者とされる田中氏には、天武朝では壬申の乱の功臣の足麻呂や、持統から文武朝に活躍した法麻呂がみられますが、奈良時代では後半に正四位下の多太麻呂がみられる程度です。このようなことから、平松廃寺造営の際には、田中氏の手を離れ、官が造営主体となり、官寺化した可能性も考えられます。



平松廃寺の創建瓦（A群の瓦、6345 A - 6642 D）



A群の瓦（8世紀初め）



B群の瓦（7世紀後半）



C群の瓦（7世紀中頃）